

シティプロ通信

No.5 2018/12/30
by 市民ワーキング会議

【文責】北川雄士
(株式会社いろあわせ)
発行
彦根市シティプロモーション
市民ワーキング会議
連絡先：〒522-6399
彦根市芥橋 2-4-6
電話：0749-20-6399
E-mail:iro@iroawase.co.jp

第5回 彦根市シティプロモーション 市民ワーキング会議

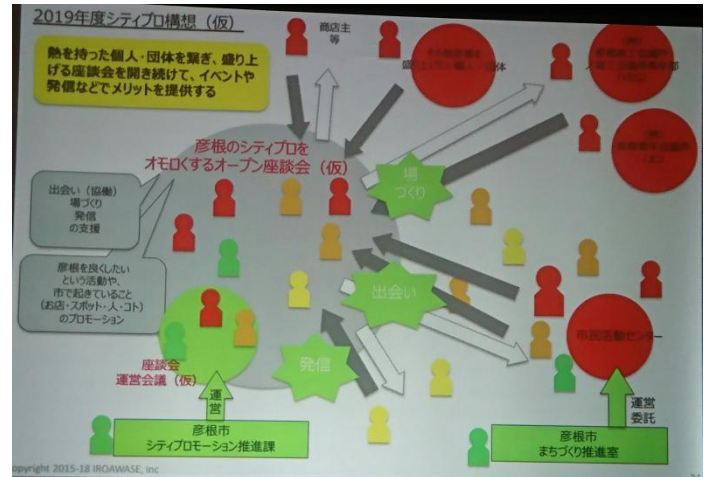
開催日 平成30年12月5日 19時から21時 会場：ビバシティホール 研修室

全5回の最終回となる市民ワーキング会議では、これからの戦略ビジョンを紡ぎだすまとめとなります。今までの会議で見えてきたビジョンから多くの人を巻き込む流れを作って行ければと思っています。そして今後のキーワード探しを行います。

まずは、前回の終盤に彦根にお越しになった田中元子さんの彦根に対してのフェイスブック記事について意見を出し合いましたが、今回はそれをもう少し突っ込んだ内容や新しい発見を出してもらいました。

理解できるという意見や、地元でも彦根城の魅力がわからない、彦根は彦根城だけで終わってしまいなかなか踏み込んでくれるケースは少ないのではないかとのこと。ここで、彦根を四段階で考えるという意見が出ました。

1. 彦根に行ってみたいと思ってもらう。
2. 泊ってみたいと
3. 住んでみたいと
4. 住んでいて楽しい



こうして、1を2にする、2を3にするなどでアプローチも変わり、それは1の後に通ってみたいがあるなどそれぞれ違った次元があるとのこと。

また、外から見ただけではわからない店の魅力があってもそれが見てもらえていなかったり、彦根の魅力として彦根城や近江牛をいう人はその次に聞いても同じことを言っているだろうから住んでいる側も変わっていかないといけない、そしていろんな人がキャッチできることを深掘りして発信したらいいのではないかとのお話もありました。根本は魅力があるけれども上手に出せていないということです。

シティプロモーション市民ワーキング会議の目的の一つとしてブランドメッセージの彦根を括るキーワード探しをすることです。

まずは彦根のテーマから

- あんまり押さないけど押しがある
- キャラがないのがキャラです
- 自分の時間が流れる街
- みんなで作る、ちょうどいい
- あのね… えっとね…
- 隠しきれない 醸し出している
- 薫習(くんじゅう)…着物に香を焚きこめること
→ほどほどゆっくり長い時間をかけて深みを増してゆく
- 噛めば噛むほど彦根味 →not インスタント
- 怡然自楽(いぜんじらく)…どんな時でも喜び楽しみ、頑張らなくていい
- 節を重ねている街、芯がしっかりしている街
→彦根を長い歴史でみると彦根が中心になっていて土壌がしっかりしているのだから
→その土壌から、幹がしっかりした木が生え、すくすくと成長する
→葉っぱがたくさん生え、風が吹くと音が出る
- あなたが見つかる彦根クション
→コネクションで人が繋がる、自分なりのコレクションを集める
- 気の合う人、いつも圏内

このあたりのメッセージを踏まえて、これから活かしてゆくこととなります。

今後の流れは、彦根市が三年間シティプロモーション戦略を実行して行きます、その柱は熱を伝えながら、どんどん広がって行くことになります。そのときに共感してもらえるメッセージが今のキーワードの中から出てきそうです。熱を持った団体や個人を結ぶ座談会のようなものをやって行きたいと考えています。

場作り、出会い、発信が起きると熱が外側に繋がり、熱が高い人だけではなく広げていきたいと思っています。

そして今回の市民ワーキング会議はこれで終わりますが、来年度からもまた新たな形で続けて行く予定です。



参加者の声

- ほどほど、すきま、ゆるみ、たわみ、ええ感じ
- 脱力感、ほどほど感、「うん、ええんちゃう？（それで）」
- 彦根は良くも悪くも「田舎の都会」だと思っている。ないものは（生活に必要な）あまりない
- 彦根はまあまあ田舎らしさもあるが、すごい田舎でもない
- 子育てはしやすいと思う。なんでも揃う。自然も近くにある。でも中途半端かも。それが彦根ではないか
- 人の良さ、都会過ぎない、田舎過ぎない、前向きな人を応援できる、し合えるところ
- ゆっくり、ゆとり、広さ、懐の深さ、スキマ
- 古いものと新しいものが存在、ちょうどいい距離感（生活）、人が面白い、自然が最高
- 根を張り枝を伸ばし葉を生い茂らせる・彦根の「根」は根っこの「根」
- 踏み込まないとわからない、ツボに入る心地よさ
- ほどほど（いい意味で）、環境、歴史・文化、利便性が上手にバランス取れている、ええ塩梅
- 市の全体の感じは日本各地に同じ雰囲気のある街があるような気がします。昔からお城があって…とか
- 「普通」と「特別」に近い、日常のすぐ隣に特別なものがある。（琵琶湖、城下町、広い空、自然、町屋）
- 彦根城だけじゃない彦根を知ってほしい（歴史、人、物）が有る
- 価値観って変わってもいいと思う、なくてはならないものヒトと繋がりー受け入れ姿勢
- 市民自らが暮らしとともに紡いできた、「生の文化」があるのが彦根っぽさなのかなと思いました
- みんなで作る彦根、個性好かれる城下町、彦根城やひこにゃんだって一つの魅力！
- 彦根には歴史、自然、ヒト、繋がり…色々なものはすでにあるけど、その存在や価値に気づいていないのかも？
- 田舎、自然、変わらなさ、のどか、美味しい野菜、ほどほどに隙間のあるまち
- 自分ではあまり良いワードが浮かばなかったが、グループではいい言葉が出たのでよかった
- 楽しかった、せっかく仲良くなったので、できたらまた会いたいと思います
- 今まで通り前向きな話が出てよかった
- 彦根の良さの本質に触れたような…そのことを同じグループの人と共有できたことがよかったです
- もっと堂々と彦根市民を楽しんでいきたい！
- 彦根に対するイメージが共通していたけれど、表現の仕方が違って、素敵ワードがたくさん聞きました
- あたらめて、街の良さに気づきました
- このシティプロモーション、大変なお仕事だと思います
- 同じように感じている人が結構多いなと実感し、嬉しいと思った
- ワークショップの進行、熱い思いを感じる。自分の中で話をする事で方向性に気づくことができた
- 知識以上にいろんなキーワードが増えました。もっと長期的にオープンにしていきたい
- 彦根城は爆破しないで置いときましょう
- 最初は「彦根の良さ」と言うものが見つかるのだろうかと不安でした
- 時間が足りないと思うくらい熱く話せました。プラントメッセージを完成させたかった
- 自分の中で納得できるワードを探すことができた
- グループのメンバーとディスカッションを通じてブラッシュアップをすることができた
- どの班もオツとするキーワードがたくさんあって、彦根のブランドメッセージが完成するのが楽しみです
- シティプロモーションの具体的なイメージをメッセージにまとめることができた
- 色々なところを巻き込んでいけばいいと思います
- 行政の方に市民メンバーが参加、市民メンバーの方に行政を派遣してみる…とか？
- ワーキング会議で生まれたものを継続、継承していければいいなと思っています
- みんなでSNSで繋がりあったりとか出来ればいいですね
- 今後も関わりと持たせて欲しいです
- また参加したいです。次年度の集まりにも参加したいです
- 発信などでぜひ今後も大きく協力していきたい